

誰もが安心して暮らせる まちの創出



北九州市消防局長 土田 久好

北九州市では、子育て支援や教育環境の整備、福祉・医療の充実のほか、地方創生の成功モデル都市を目指し、女性や若者の定着につながる魅力ある地域づくりや、安全・安心のまちづくりに、オール北九州で取り組んでいます。平成27年には、日本の近代化に貢献した官営八幡製鐵所関連施設を含む「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録され、「世界遺産のある街」にもなり、産業観光を始めとしたにぎわいの創出に弾みをつけることができました。

本市消防局では、市民の生命、身体及び財産を災害から守るという使命の下、「元気発進！北九州」プラン(北九州市基本構想・基本計画)に基づき、市民が安全・安心を実感できるまちづくりの実現に向け、事業を進めております。

「公助が汗をかいて努力する」ことを基本に、行政と地域が一体となって防火・防災力の向上を目指すとともに、あらゆる災害に対応できる消防体制を確保するため、施設や資器材等の整備を継続するなど、消防力の更なる強化に取り組んでいます。平成29年6月1日からは、外国語で119番通報を受けた際に、消防指令センターから通訳センターに電話を繋ぐことで三者通話が可能となる電話同時通訳サービス(7カ国語(英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語及びタイ語))を開始しました。

【地域の総合的な災害対応力の強化】

市民が主体的に防火・防災に取り組むまちづくりを推進するため、自主防災組織の支援や少年消防クラブの設置促進を行います。今年7月、第21回「ヨーロッパ青少年消防オリンピック」に日本代表として、本市から「くすばし少年消防クラブ」が出場しました。

また、地域の災害対応力の要である消防団の機能強化を図るとともに、傷病者に対する市民の救命効果を向上させるため、応急手当の普及啓発を継続します。

【国際的な取組】

本市消防局では、昭和63年からJICA(国際協力機構)九州と協力して、開発途上国の消防士に日本の優れた消防技術を指導する「消防・防災」研修を実施しており、今年で30年目となります。

この研修は、JICAと総務省消防庁からの依頼による、消防分野の国際協力事業です。「消防・防災」研修の内容は、消火技術や火災原因調査技術、人命救助や応急手当など、様々な技術指導を実施しています。

平成26年からは、近年多発している自然災害についても指導内容に加え、地震や豪雨災害に対する消防としての対応などの指導も行っています。

研修員は、アジアやアフリカ、南米、太平洋の島国などの様々な国から毎年約10名程度が訪れており、これまで30年間の研修員の数は、82カ国265名となりました。

また、インドネシア共和国において、泥炭・森林火災に対し、産・学・官で共同開発した環境負荷の少ない新たな石けん系消火剤を用いた消火技術の普及事業を実施して、住民への防火・防災意識の向上、泥炭火災のメカニズムの把握、現地に適した有効な消火方法や技術の普及に貢献しました。

結びに、今後も様々な施策を展開し、市民が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するとともに、市民のニーズや社会情勢を的確に捉え、全国の消防機関の皆様を始め、防災関係者等との連携を密にし、様々な課題に適切に対処してまいりたいと考えております。



第21回ヨーロッパ青少年消防オリンピックに出場
～くすばし少年消防クラブ～



インドネシアにおける、石けん系消火剤を用いた消火技術の普及事業